



ひや 日焼けをするのはどうして

ひや 日焼けというのは

ひ そとがわ じゆん ひょうひ しんぴ ひかそしき わ ひょうひ した しんぴ
 皮膚は、外側から順に、表皮、真皮、皮下組織に分かれています。表皮の下の真皮とふれ
 あ ぶぶん くる さいぼう にっこう
 合う部分には、メラニンという黒いつぶをつくる細胞があります。日光にあると、メラニ
 ンが増えて皮膚が黒くなり、これを日焼けといっています。

たいよう ひかり からだ わる しがいせん ひかり
 太陽の光には、体にいいものと悪いものがふくまれています。紫外線とよばれる光には、
 からだ わる しがいせん からだ はい ひ ひょうひ しんぴ あいだ
 体に悪いものもあるため、この紫外線が体に入りすぎないように、皮膚の表皮と真皮の間
 にできた、メラニンという黒いつぶが、紫外線を吸い取ってしまうのです。ですから、日焼け
 をするのは、つよ たいよう ひかり からだ ひ まも
 するのは、強い太陽の光から、わたしたちの皮膚を守るためなのです。

ひや 日焼けすると皮膚がむけるのは

ひや ひ たいよう ねつ ひ ひ さいぼう
 しかし、日焼けして皮膚がむけるのは、太陽の熱が皮膚にあたり、皮膚の細胞をかかわし
 てしまうからです。皮膚の細胞が、太陽の熱でからからになり、死んでしまうために、皮が
 はがれて、むけてしまうというわけです。これは、やけどをしたときと、おな じょうたい
 同じ状態です。

からだ や ちゅうい
 体をあまり焼きすぎないように、注意しましょう。(監修・保志 宏)

